

切らずに治せる硬化療法に期待

内痔核(いぼ痔)



ただともひろ胃腸科肛門科・院長
多田智裕さん
 東京大学医学部医学科卒業。同大学
 院外科学専攻卒業。同大学医学部附
 属病院外科、大腸肛門外科を経て、東
 葛辻仲病院外科へ。2006年ただとも
 ひろ胃腸科肛門科院長。2007年理事
 長(医療法人化)。

「新しいクリニックで
 入りやすいということも
 あるのでしょうか、約6
 割が女性です。今は手術
 でなくては治せなかった
 痔でも、ALTA法で効
 果が出ています。出血や
 痛みがあるなら、まずは
 専門医を訪ねること
 です。痔ではなく、大腸が
 んなど重篤な病気という
 場合もあります。早めに
 受診し、自分に合った治
 療法を選択しましょう」
 ※ <http://z injection.net>
 (レポーター・須田佳美)

患者の約7割〜8割を占める内痔核

国民病といわれるほど、多くの人が悩んでいる痔には「痔核」「裂肛」「痔ろう」の3つのタイプがあります。中でも男女を問わず多いのが、痔核です。

「痔核には内痔核と外痔核がありますが、多いのが内痔核(いぼ痔)。この病院でも、患者さんの約7割〜8割を内痔核が占めています。実際に

出血や痛みを感じるなどの症状が出て、初めて来院する人が多いです。また脱肛といって、痔核の肛門からの脱出に気がついて、やってくる患者さんもいます」

痔にならないための、日頃からの注意点は？

「一言で言えば、やはりお尻に負担をかけないことですね。例えば便秘になったら、便秘薬を用

いてもいいですが、トイレで長くいきまない方がいいです。痔になってしまったら、座り仕事の人はイスにクッションを置いて座るなどの工夫しましょう。さらに痛みがあるなら、激しい運動は避けてください。お尻を清潔にして、冷やさないことも大切です」

痛みもなく根治に近づけるALTA法

「内痔核は4段階に分けられます。I度は、排便時に出血するが痛みはそれほどない人。II度は、排便時に脱出するけれど、排便後は自然に元に戻る状態。III度は、脱肛といって、排便のために出てきて指で押さえないと戻らない状態。IV度は排便に関係なく常に出ていて、指などで押し込んでも戻らない状態です」

最近では、II度、III度なら、根治に近い状態にできる新しい治療法が出てきているのか。

「今までは、軟こう・坐薬などを使用する薬物療法で症状の経過をみるか、あるいは切ってしまうか、あるいは切らなくてもいい治療法です。ALTA法は、内痔核が切除手術や薬物療法以外で治る方法で、メリッとトも大きいぞう。」

「内痔核に直接注射して、出血と脱肛を防ぐ新しい治療法ですから、切らなくていい治療法です。ALTA法は、高

当然日帰りの可能性も。痔の手術では、日帰り手術もありますが、おおよそ5日〜7日の入院が多いので、メリットは大きいですね。あくまで注射なので、切った痛みなどや出血といったことがほとんどないのもメリットです。ALTA法は、高度な手技と適切な使用が必要ですから、何百件かの痔の手術を経験している人が望ましいと思います。実際、内痔核治療法研究会の講習修了者が治療を行っています」

「修了者のいる医療機関は、研究会のHP(※)で検索できます。」

早めに受診し、自分に合った治療を

「ALTA法で治療した患者さんは、1日で著しい効果があるので驚いています。翌日から痔核が硬くなって脱肛しないので、早くやればよかったです。意外と多くの女性も悩んでいる病気です。恥ずかしいからと専門医を訪ねることをためらう場合もあるようです。ただともひろ胃腸科肛門科は、女性患者が多

いことでも知られてい

老若男女を問わず、誰もがなる可能性のある「痔(じ)」。恥ずかしがらず、正しい知識を持つことが大切です。最近の治療法や注意点について、ただともひろ胃腸科肛門科院長の多田智裕さんに聞きました。

※PDFファイルの二次利用はご遠慮ください。
 ※色、画質は出力環境により変わります。